

豊明市新エネルギー推進計画(案) 概要版

1. 新エネルギー推進計画とは

(1) 計画策定の背景及び目的

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故を契機とした国のエネルギー施策の転換、愛知県におけるエネルギー政策の動向を踏まえ、豊明市としてのエネルギー政策の考え方を整理するとともに、市民、事業者、行政の協働による具体的な取り組みを検討し、「豊明市新エネルギー推進計画」(以下、「本計画」という。)を策定しました。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、豊明市環境基本条例に基づいて策定される豊明市環境基本計画のうち、エネルギー分野に特化して策定されるものであり、エネルギー・環境施策を総合的かつ計画的に推進することにより、本市の望ましい環境像『人と人、人と地域、人と自然の環境理想都市(ユートピア)豊明』の実現を目指すものです。

(3) 計画期間

計画期間は、平成 25 年度から平成 37 年度までとします。

第 5 次豊明市総合計画の中間見直しのタイミングに合わせて本計画も見直しを図ることとします。

2. 豊明市が目指すべき方向性

(1) 豊明市の地域特性

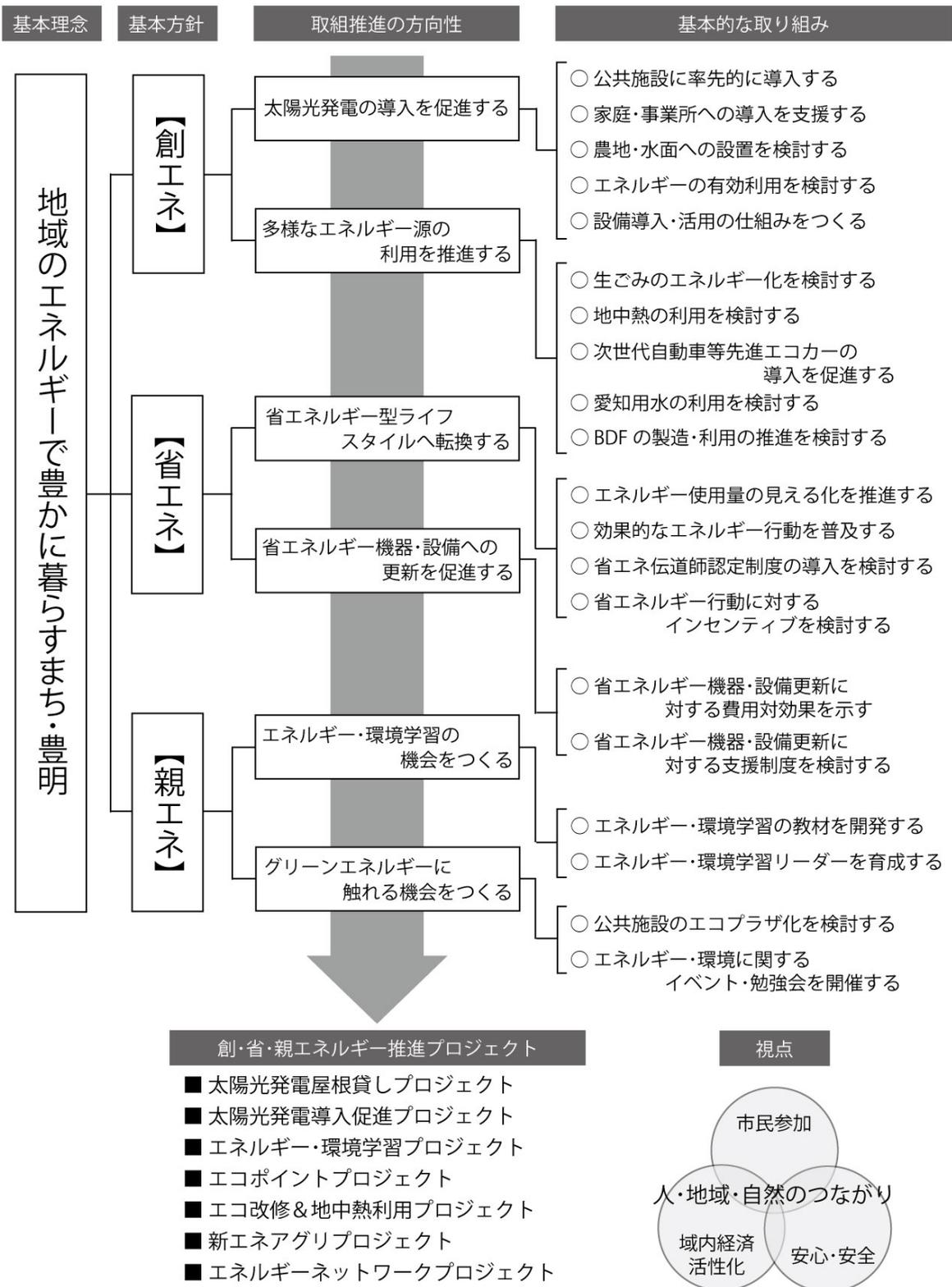
エネルギー・資源を取り巻く情勢として、以下のような地域特性が考えられます。

【豊明市の地域特性のまとめ】

- 肥沃な土地と温暖な気候から農業に適した地域であり、宅地のほかに農用地が市域の多くを占めている。
- 北部から南部に緩やかに傾斜した土地で、安定した日射量・日照時間が確保されている。
- 人口は微減、世帯数は微増を示しており、1人あたりのエネルギー消費量が大きい世帯が増えている。
- 一戸建て、持家の割合が高く、住宅での創エネルギー・省エネルギーに取り組みやすい。
- 市域の一部ではあるものの、生ごみの分別収集に取り組んでいる。
- 2011年の部門別のエネルギー消費量は、産業部門で 1,377TJ(1990年比:約 29%減)、民生家庭部門で 1,110TJ(同:約 30%増)、民生業務部門で 1,173TJ(同:約 43%増)、運輸部門で 606TJ(同:約 30%増)となっており、民生部門での増加が著しい。
- 新エネルギーの賦存量としては、太陽エネルギーの賦存量が大きい。
- 新エネルギーの可採量としては、発電分野では太陽光発電のほか、一般廃棄物を利用した廃棄物発電、河川等を利用した中小規模水力発電にポテンシャルがある。熱利用分野では、太陽熱利用、地中熱利用、廃棄物熱利用にポテンシャルがある。

(2) 基本理念・基本方針、取組体系

基本理念として「地域のエネルギーで豊かに暮らすまち・豊明」、基本方針として「創エネ：地域で“創”る、地域のエネルギー」「省エネ：無駄を“省”き、賢くエネルギーを使う」「親エネ：学びを通じて、エネルギーに“親”しむ」を設定し、これらの考え方に基づく基本的な取り組みを以下のように設定しました。



3. 創・省・親エネルギー推進プロジェクト

基本方針及び基本方針に基づく取組推進の方向性を横断的な視点で捉え、総合的に本市の創・省・親エネルギーを推進する7つのプロジェクトを掲げています。各プロジェクトの取組概要を示します。

(1) 太陽光発電屋根貸しプロジェクト

市民参加型による『新しい公共』という考えの下、市民協働発電制度を核とする、市内小中学校等の市有施設の屋上を活用した太陽光発電屋根貸し事業を行う。太陽光発電システムの導入により、環境教育の実践、災害時における市有施設の防災機能強化、域内経済活性化を図ることを目的とする。

(2) 太陽光発電導入促進プロジェクト

市民ファンドにより、豊明市内外から出資金を募り、出資金を基に太陽光発電に取り組みたい市民の住宅に太陽光発電システムを設置する。市民は発電した電力のうち自宅で使わず余った電力を電力会社等に売電する。また、月々定額料を支払い、そこから出資者に還元する。

(3) エネルギー・環境学習プロジェクト

持続可能な社会の構築を目指し、エネルギー・環境問題の解決に向け、主体的かつ適切に判断し行動できる人材を育成することを目的として、小中学校における教科学習及び総合的な学習の時間を活用した、体感型のエネルギー・環境学習を推進する。

(4) エコポイントプロジェクト

生ごみの分別収集、住宅用太陽光発電補助制度の活用、ひまわりバスの利用、環境イベントへの参加といった環境配慮活動に対してエコポイントを発行する。また、市内の商店街やレストラン・商業施設等と連携し、貯まったエコポイントに応じて、商品券やサービスが受けられる仕組みを構築する。

(5) エコ改修&地中熱利用プロジェクト

壁や窓の断熱化、高効率型照明や空調、太陽光発電の導入等による省エネ効果を検証し、公共施設における環境配慮整備指針を策定する。また、整備指針に基づき、公共施設の保全改修等に併せて環境配慮項目を導入するとともに、地中熱利用にも取り組み、環境配慮の仕組みや効果が体感できる施設として整備する。

(6) 新エネアグリプロジェクト

農地の上やビニールハウスの屋根・側面に太陽光発電システムを設置するなどし、農業と太陽光発電事業の共生を目指す。これにより、太陽光発電の普及だけでなく、農業者の収入拡大や後継者不足の解消、耕作放棄地の解消等を併せて図る。

(7) エネルギーネットワークプロジェクト

家庭や事業所等で発電した電力や生成した熱を蓄電・蓄熱し、地区単位で融通し合うとともに、地区間をエネルギーネットワークでつなぎ、エネルギー資源が不足している地区や不足している時間帯に、地域内で融通して利用できるような社会システムを構築する。

4. プロジェクトの着実な推進に向けて

基本的な取り組みの進捗状況を把握し、必要に応じて見直しを図るため、検証可能な評価目標を以下のとおり設定しました。

【創エネ】太陽光発電の導入を促進する

太陽光発電システムの導入件数（電力会社への売電契約件数）



【創エネ】多様なエネルギー源の利用を推進する

豊明市内で導入されている新エネルギーの種類



【省エネ】省エネルギー型ライフスタイルへ転換する

省エネルギー型ライフスタイルに取り組む世帯数



【省エネ】省エネルギー機器・設備への更新を促進する

省エネルギー機器・設備への更新件数



【親エネ】エネルギー・環境学習の機会をつくる

エネルギー・環境学習の取組状況



【親エネ】グリーンエネルギーに触れる機会をつくる

グリーンエネルギーに触れる機会

